

鹿児島の昆虫32

危険なハチには注意しよう

昆虫担当 金井 賢一

ハチといえば全てが怖いものというイメージを持つ人も多いと思いますが、人を襲うような怖いハチは、ハチ全体の中では少ないのです。一匹で花を飛び回っているようなハチは、握らない限りはおそらく刺しません。指を近づけると、ハチの方から逃げ出すでしょう。



キイロハラナガツチバチ

ではどのようなハチが怖いのでしょうか。それは『集団で』、『巣を防衛している』、『働きバチ』です。この三つの条件を満たすのは、スズメバチの仲間、アシナガバチの仲間、そしてミツバチの仲間が挙げられます。中でも人を積極的に攻撃するのは、スズメバチです。ただし、スズメバチも一年中怖いわけではありません。

先に挙げた三つの条件を満たすのは、主に夏の終わりから秋にかけてです。



キイロスズメバチの巣と働きバチ

スズメバチの女王バチは、単独で越冬します。

春になり、外の世界に出てくるとエサ取りも、巣作りも全て女王バチ一匹で行わなければなりません。この時期の女王バチは、敵に襲われたり事故にあったりして命を落としやすい時期ですので、人に出会っても向かってくることは無く、女王バチの方から逃げていきます。最初の働きバチが生まれると、女王バチは危険な外の仕事から解放され、巣の中で産卵のみに専念するようになります。働きバチは新しい働きバチを育て、巣はどんどん大きくなります。そして秋になると、来年の女王バチになるものと、交尾するオスバチが育てられます。このような時には働きバチは巣を守る性質が強くなり、近づくものを攻撃します。つまり、スズメバチが巣に近づく人間を襲うようになるのは、夏の終わりから秋にかけて、巣が大きく成長している時なのです。

スズメバチが人を襲う時には、段階的な行動が見られます。まず最初の段階では、巣に近づくものを働きバチの1～数匹が警戒に来ます。人の周りを飛び回り、よく見るとアゴをガチガチとかみ合わせて威嚇します。次の段階には空中から毒液を振りかけたり、矢のようにぶつかりながら刺してきます。この際の毒が警戒フェロモンとなり、他の働きバチにも攻撃を促させます。最後に、相手にかみついて、何度も針を抜き差ししながら攻撃を加えます。スズメバチに10数か所刺された、といっても、刺したスズメバチはそれよりも少ないことが多いです。

スズメバチに刺されないようにするには、巣に近づかないことが一番です。しかし、キイロスズメバチやコガタスズメバチの巣は木や軒下など見えるところにあります。オオスズメバチは土の中に作るのでも、気づかずに近寄ってしまうことがあります。ですから、警戒する働きバチが周りを飛んだ時は、慌てず、そっと後ろに下がってください。手で払ったり大きな声を上げたりすると、ハチも興奮して次の攻撃段階に移るかもしれません。

巣のある場所が近寄らなくても良い場所ならば、冬まで避けていればハチはいなくなります。しかし、通路や畑など、どうしても通らなければならない場所の時には、専門の業者に依頼して駆除してもらいましょう。素人



オオスズメバチの女王(左)とオスバチ(右)

撮影:中村京平(鹿児島昆虫同好会)

が見よう見まねで駆除すると、大変な被害を受ける場合があります。

スズメバチは幼虫に昆虫などを与える狩りバチの一種です。一つの巣を維持するために、多くの昆虫を必要としますから、畑を荒らす昆虫なども食べてくれる益虫の面も持ちます。ヒトの生活と重ならない時には、そっと見守ってあげることも必要です。